

## Question 2

漸化式

$$a_{n+3} = a_{n+2} + a_{n+1} - a_n, \quad a_1 = 0, a_2 = -1, a_3 = 1$$

で定められる数列  $\{a_n\}$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) の一般項を求めよ.

Answer:

$$a_n = \frac{2(n-1) + 3\{(-1)^{n-1} - 1\}}{4}.$$

## 1 解答中の記号, 定理の補足

- $n$  次正方行列

$$J(\alpha, n) = \begin{bmatrix} \alpha & 1 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & \alpha & 1 & \ddots & \vdots \\ \vdots & \ddots & \ddots & \ddots & 0 \\ \vdots & & \ddots & \ddots & 1 \\ 0 & \cdots & \cdots & 0 & \alpha \end{bmatrix}$$

を固有値  $\alpha$  に対するサイズ  $n$  の **ジョルダン細胞** という.

- 例:

$$J(2, 3) = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}, \quad J(4, 2) = \begin{bmatrix} 4 & 1 \\ 0 & 4 \end{bmatrix}, \quad J(7, 1) = [7]$$

である.

- 正方行列  $A$  に対して,  $J = P^{-1}AP$  がジョルダン細胞の直和 ( $\oplus$ ) で表されるとき,  $J$  を  $A$  の **ジョルダン標準形** という.
- 例:

$$J(7, 3) = \begin{bmatrix} 7 & 1 & 0 \\ 0 & 7 & 1 \\ 0 & 0 & 7 \end{bmatrix}$$

$$J(2, 1) \oplus J(-1, 2) = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 1 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

$$J(1, 1) \oplus J(2, 1) \oplus J(3, 1) = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

はすべてジョルダン細胞の直和で表されている.

- ジョルダン標準形の対角成分は, (重複込みで)  $A$  の固有値が並ぶ.
- $(A - \alpha E)v = \mathbf{0}$  を満たす  $v$  全体を  $\alpha$  に対する **固有空間** といい,  $V_\alpha$  で表す.
- $V_\alpha$  の元で零ベクトル  $\mathbf{0}$  でないものを  $\alpha$  に対する **固有ベクトル** という.

### ジョルダン細胞の個数

$\alpha$  を  $n$  次正方行列  $A$  の固有値とする. 固有値  $\alpha$  に対するジョルダン細胞の個数は,

$$n - \text{rank}(A - \alpha E)$$

である.

## 2 解答

- ベクトル  $\mathbf{x}_n$  を

$$\mathbf{x}_n = \begin{bmatrix} a_{n+2} \\ a_{n+1} \\ a_n \end{bmatrix}$$

とおく.

- $\mathbf{x}_{n+1} = A\mathbf{x}_n$  を満たす行列  $A$  を求める.

$$\mathbf{x}_{n+1} = \begin{bmatrix} a_{n+3} \\ a_{n+2} \\ a_{n+1} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{n+2} + a_{n+1} - a_n \\ a_{n+2} \\ a_{n+1} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_{n+2} \\ a_{n+1} \\ a_n \end{bmatrix} = A\mathbf{x}_n$$

と計算して,

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}.$$

- 固有値を求める.

$$\varphi_A(x) = |xE - A| = \begin{vmatrix} x-1 & -1 & 1 \\ -1 & x & 0 \\ 0 & -1 & x \end{vmatrix} = x^3 - x^2 - x + 1 = (x+1)(x-1)^2$$

より, 固有値は  $-1$  (重複度 1) と  $1$  (重複度 2) である.

- ジョルダン標準形  $J$  を決定するために各固有値に対する固有空間の次元を調べる. 固有値  $1$  に関して,

$$A - 1 \cdot E = \begin{bmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\text{行基本変形}} \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

より,  $\text{rank}(A - 1 \cdot E) = 2$  であるから, 固有値  $1$  に対するジョルダン細胞は  $3 - 2 = 1$  つ.

また,  $V_1$  の基底として  $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  が選べる.

固有値  $-1$  に関して,

$$A - (-1) \cdot E = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\text{行基本変形}} \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

より,  $\text{rank}(A - (-1) \cdot E) = 2$  であるから, 固有値  $-1$  に対するジョルダン細胞は  $3 - 2 = 1$

つ. また,  $V_{-1}$  の基底として  $\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix}$  が選べる.

したがって  $A$  のジョルダン標準形  $J$  は

$$J = J(1, 2) \oplus J(-1, 1) = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

と決定できる.

- 正則行列  $P$  を求める.  $J = P^{-1}AP$  より  $AP = PJ$  である.  $P = [p_1 \ p_2 \ p_3]$  とおくと,

$$\begin{cases} Ap_1 = 1 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + 0 \cdot p_3 \\ Ap_2 = 1 \cdot p_1 + 1 \cdot p_2 + 0 \cdot p_3 \\ Ap_3 = 0 \cdot p_1 + 0 \cdot p_2 + -1 \cdot p_3 \end{cases}$$

が成り立つ. 1つ目の式より  $A\mathbf{p}_1 = \mathbf{p}_1$  であるが, これは  $\mathbf{p}_1$  が固有値 1 に対する  $A$  の固有ベクトルであることを表すから,  $V_1$  の基底を採用して,  $\mathbf{p}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  としてよい. 2つ目の式の  $\mathbf{p}_2$  を左辺に移項して整理すると  $(A - E)\mathbf{p}_2 = \mathbf{p}_1$  であるから,  $\mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$  において,

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

を満たす  $x, y, z$  を1つ求めればよい. 例えば,  $\mathbf{p}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}$  が選べる. 3つ目の式は  $\mathbf{p}_3$  が固有値  $-1$  に対する  $A$  の固有ベクトルであることを表すから,  $V_{-1}$  の基底を採用して,  $\mathbf{p}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix}$  としてよい. 以上より, 求める正則行列  $P$  は

$$P = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & 1 \end{bmatrix}.$$

- $A^n = (PJP^{-1})^n = (PJP^{-1})(PJP^{-1})\cdots(PJP^{-1}) = PJ^nP^{-1}$  である. ジョルダン細胞の  $n$  乗の公式と掃き出し法の計算により

$$J^n = \begin{bmatrix} 1^n & n \cdot 1^{n-1} & 0 \\ 0 & 1^n & 0 \\ 0 & 0 & (-1)^n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & n & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & (-1)^n \end{bmatrix}, \quad P^{-1} = \frac{1}{4} \begin{bmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 2 & 0 & -2 \\ 1 & -2 & 1 \end{bmatrix}$$

であるから,

$$A^n = PJ^nP^{-1} = \frac{1}{4} \begin{bmatrix} 2n + 3 + (-1)^{n+2} & 2 + 2(-1)^{n+3} & -2n - 1 + (-1)^{n+2} \\ 2n + 1 + (-1)^{n+1} & 2 + 2(-1)^{n+2} & -2n + 1 + (-1)^{n+1} \\ 2n - 1 + (-1)^n & 2 + 2(-1)^{n+1} & -2n + 3 + (-1)^n \end{bmatrix}$$

を得る.  $\mathbf{x}_n = A^{n-1}\mathbf{x}_1$  が成り立つことを利用すれば, この右辺を実際に計算して

$$a_n = \frac{2(n-1) + 3\{(-1)^{n-1} - 1\}}{4}$$

が求められる.